

# 東京オリンピック・パラリンピックに向けた 千葉市の取り組み

---

2016年6月30日

千葉市長 熊谷 俊人



← 車椅子バスケット

ウィルチェアラグビー →



# 東京オリンピック・パラリンピックの開催地について

- 6月 幕張メッセにてオリンピック3競技開催が決定
- 11月 パラリンピック4競技開催が決定
- オリ・パラともに開催する都市は東京以外では千葉市のみ



フェンシング



レスリング



テコンドー



ゴールボール



シットイングバレー



車いすフェンシング



テコンドー

# 重点的に取り組むべきこと

## ● 競技開催地となる幕張新都心の活性化

- 千葉市のインバウンド・MICE戦略の更なる深化
- 国家戦略特区(ドローン、ロボットタクシー等のモビリティ、民泊など)

## ● パラリンピックの成功

- 障害者スポーツ環境の整備
- 健常者の意識変革、健常者と障害者のスポーツ交流

## ● 関係市との連携

- 京葉線とりんかい線の相互直通運転、水上交通など

# 幕張新都心における提案イメージ

2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催される幕張新都心において、

既存ストック(コンベンション機能、国際的業務機能、居住機能、スポーツ・レクリエーション機能など)のリノベーションと、先端技術のイノベーションを融合したショーケース化

- "幕張新都心"から日本の先端技術を活用した未来都市をアピール
- その結果、オリンピック・パラリンピックレガシーの創出と競争力のある産業集積を促進
- 先端技術の活用により、外国人をはじめ、高齢者・障害者など全ての人がストレスフリーな生活(ユニバーサル未来社会)の実現

## Renovation

オリパラに伴う  
・多言語化案内  
・バリアフリー化  
(アクセシビリティの向上)



## Innovation

先端技術を活用した  
ドローンによる  
宅配サービス・セキュリティ

提案 1



## Innovation

先端技術を活用した  
モビリティの導入

提案 2



## Renovation

幕張メッセの  
大規模改修



## Renovation

QVCマリンフィールド改修



## Renovation

海辺のグランドデザイン



## Renovation

コンベンション機能を活用した  
魅力的な道路空間の創出

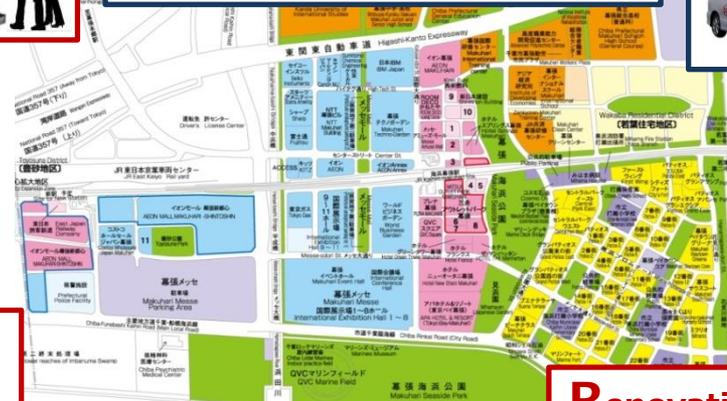
提案 4



## Renovation

既存マンションを活用した民泊

提案 3



# 提案内容①

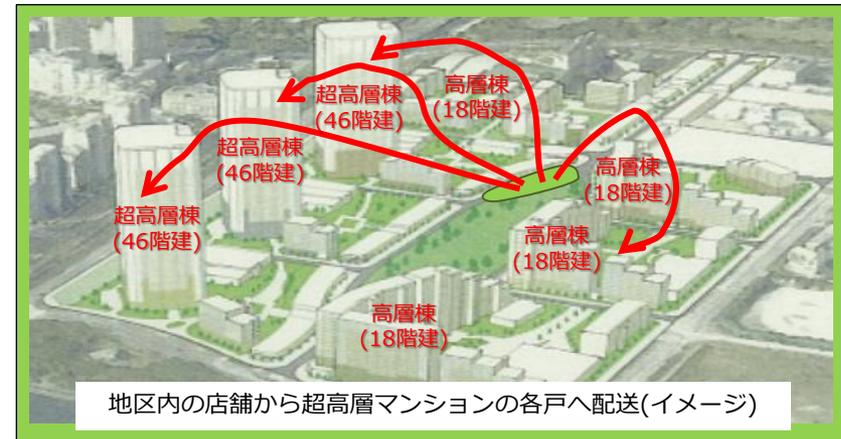
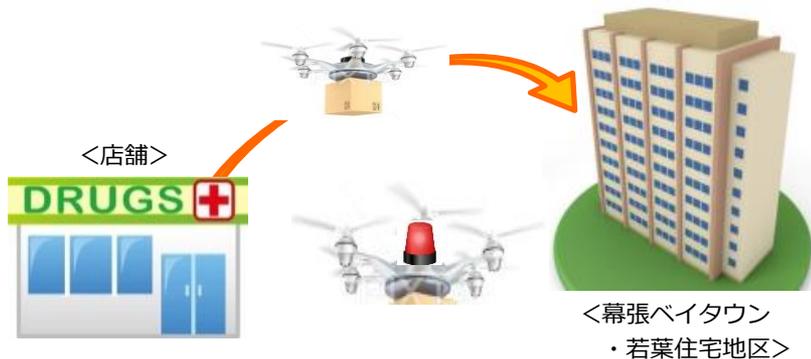
## 先端技術を活用したドローンによる宅配サービス・セキュリティ

- 幕張新都心に近接する東京湾臨海部の物流倉庫から無人飛行機(ドローン)により、海上(約10km)や花見川(1級河川)の上空を飛行し新都心内の集積所まで運び、住宅地区内のマンション各戸への宅配を行うことで、都心部における人がいないところを通った10kmもの飛行距離の実証実験が可能となる。
- ドローン開発の第一人者である千葉大学 野波健蔵特別教授と連携している。  
(野波特別教授が代表取締役を務める(株)自律制御システム研究所は本市に立地)



地区内の店舗から無人飛行機(ドローン)により、超高層マンションの各戸へ薬品など生活必需品の宅配を行う。また、無人飛行機(ドローン)による不審者・侵入者に対するセキュリティサービスを行う。

## 【垂直的取組】



## ○課題

- ・ 進入表面等上空、地表・水面から150m以上の空域、人口集中地区上空での飛行は不可 (改正航空法第132条)
- ・ 日中において、周囲の状況を目視で常時監視することが求められる (改正航空法第132条の2)
- ・ 周波数帯域の割り当てが無いため、Wi-Fi (免許不要) 周波数帯での飛行しかできない (電波法第26条)

## ○規制緩和等

- ・ 改正航空法第132条及び132条の2の飛行禁止区域の除外
- ・ 同各条ただし書き規定に基づく **大臣許可・大臣承認** による飛行可能措置
- ・ 地元住民の合意や安全対策の確保を条件に、人口集中地区からの除外対象として **大臣告示の区域** とする
- ・ 一定期間の飛行計画の許可・承認 (要領の90日又は1年 ⇒ 5年程度)
- ・ 業務用の **無人航空機(ドローン)専用の周波数帯域** を割り振る

**効果** ○先端技術産業の集積 ○コスト削減による経済効果 ○子育て世帯・高齢者などの日常生活の利便性向上

## 先端技術を活用したモビリティの導入

幕張新都心内の公道(車道・歩道)を利用して、ロボットタクシーの無人運行や、パーソナルモビリティのシェアリングサービスの実証実験を行う。

なお、ユニバーサル未来社会推進協議会(文部科学省)との連携について、同協議会の事務局である千葉工業大学未来ロボット技術研究センター(fuRo)と協議を進めている。



### ロボットタクシーの無人運行

#### ○課題

公道における車両の運転に関し、必ず運転者が装置を確実に操作しなければならない  
(道路交通法第70条)

#### ○規制緩和等

公道における車両の運転に関し、無人・自動走行(自動運転技術レベル4)を可能とする



### パーソナルモビリティのシェアリングサービス

#### ○課題

歩行補助車から離れる場合は、原動機を停止しなければならないため、移動支援ロボットは無人で自動走行できない  
(道路交通法施行規則第1条)



歩行補助車は、6km/hを超える速度を出すことができない(道路交通法施行規則第1条)

#### ○規制緩和等

移動支援ロボットの無人・自動走行の実証実験  
・最高速度10km/hまで対応可能な、周囲状況に応じて適正速度となる自律制御の安全移動支援技術の検証

効果

○先端技術産業の集積 ○新都心内のアクセス・回遊性向上 ○高齢者・障害者などの快適な移動

# 提案内容③

## 既存マンションを活用した民泊

幕張新都心内の住宅地区において、外国人等の観光やビジネス客を対象に、マンションの一部を宿泊施設として利用する。

＜幕張新都心の6つのホテル＞  
 部屋数 約2,700 (H27.10時点)  
 ⇒約3,200 (H28.10以降)  
 H26年度の**ホテル稼働率：86%**

幕張新都心に立地するホテルの宿泊者数は右肩上がりであり、**年間約130万人**が宿泊している。



今後オリンピックの開催等により、**宿泊施設の不足**が見込まれる。

### ＜オリパラ宿泊者等試算結果＞

- ・来場予定者 3競技(15日間)で188千人  
その3割が宿泊と仮定  
…計56,400人が宿泊(3,760人/日)
- ・必要となる客室は、約2,510室  
(1部屋1.5人宿泊で換算)
- ・ホテルの客室のうち半分は競技関係者および報道関係者用で使用  
⇒ **約1,000室の部屋が不足。**

**民泊  
による  
対応**

### ＜国際性に富んだ住民＞

幕張ベイタウンでは、マレーシア国立学校の生徒をホームステイで受け入れている。

【実績】  
 H26.9～  
 計4回  
 延べ120人



### ○課題

宿泊料を受けて人を宿泊させる営業は「旅館業」と定義されており、旅館業を経営するものは、旅館業法等に基づく都道府県知事(又は保健所設置市長)の許可が必要(旅館業法第3条第1項)

### ○規制緩和等

**国家戦略特別区域法第13条による旅館業法の特例の適用 (区域認定)**



### 効果

- MICE機能の補完
- 訪日外国人などの利便性向上
- 多文化交流の活性化
- 既存ストックの有効活用

## コンベンション機能を活用した魅力的な道路空間の創出

「幕張メッセ」で開催される2020年東京オリンピックをはじめ各種国際会議やイベント等と連携し、駅前広場やメッセ周辺の道路空間に、国際会議やイベント等の関係者の利便性向上を図る多言語看板、ベンチ、オープンカフェなどを設置する。



＜アジア地域有数の規模を誇る幕張メッセ＞

国内初の本格的なコンベンションセンターである幕張メッセは幕張新都心の中核的施設であり、直近10年平均で年間680件のイベントを開催し、年間約540万人が来場している。

### ＜直近の主なMICE開催実績＞

平成26年5月

日本文化人類学会50周年記念国際研究大会

参加者：約1,000人（うち外国人約400人）

平成26年7月

第99回国際キワニス年次総会

参加者：約2,900人（うち外国人約1,800人）

平成27年8月

第9回国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES)

世界大会 参加者：約1,200人（うち外国人約800人）



＜歓迎バナー＞



＜駅前広場でのイベント開催＞

- 課題 ・多言語看板・ベンチ・オープンカフェなどの道路占用にあたっては、道路管理者の許可が必要であり、また、道路の敷地外に余地がないためやむを得ない場合のみ許可となる。（道路法第32条、第33条）
- ・道路の使用にあたっては、所轄警察署長の許可が必要である。（道路交通法第77条）

○規制緩和等 国家戦略特別区域法第17条による国家戦略道路占用事業の認定（区域認定）

効果

○MICE機能の補完

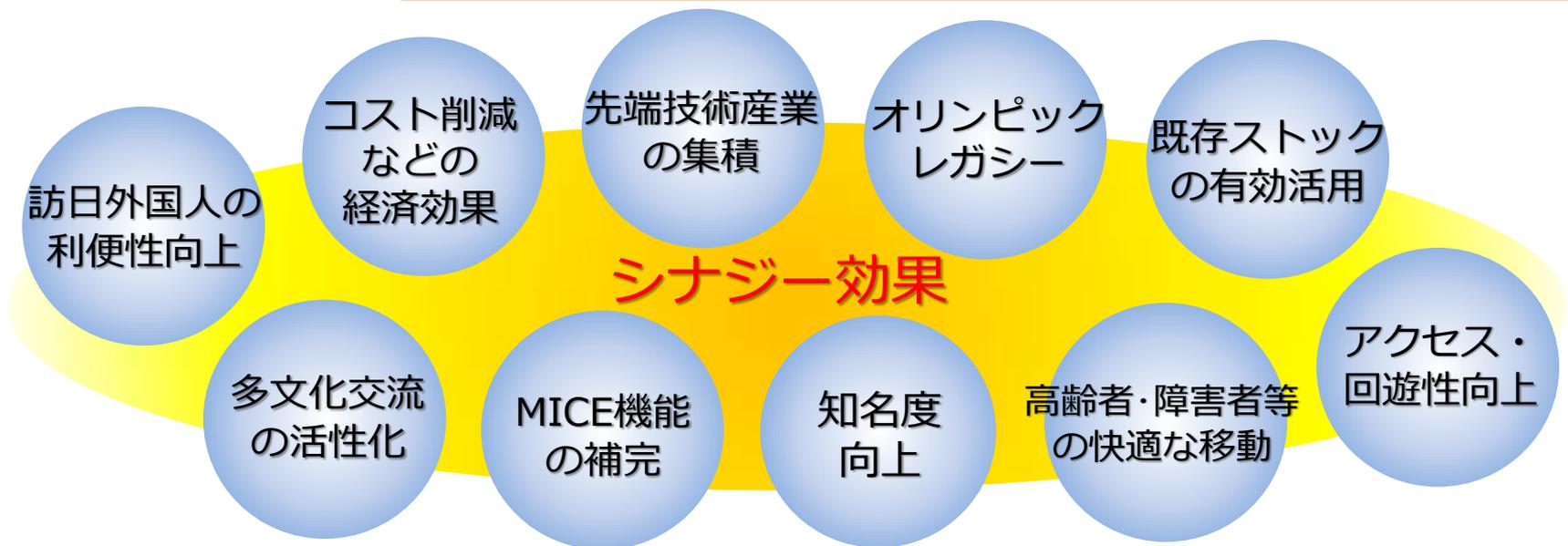
○訪日外国人などの利便性向上

○賑わい創出



本市の提案は、

- ◆ これまでにない首都圏の都市部におけるドローン等の先端技術を集約した本市の立地環境を活かした取組みであり、日本の産業競争力の強化に大きく貢献し、世界に向けて日本の先端技術を活用した未来都市をアピール
- ◆ 幕張新都心は、2020年東京オリンピックの開催地、グローバルMICE強化都市に選定されており、アピール効果は極めて高く、その結果、オリンピックレガシーの創出、国際競争力の強化に貢献
- ◆ 近未来技術を活用した取組みにより、すべての人がストレスフリーな生活「ユニバーサル未来社会」を実現



# パラリンピックの成功に向けて



- スポーツ用車椅子の分野で世界的に有名な市内企業
- 車椅子テニスの国枝選手等、トップアスリートが使用

## 車椅子スポーツ

- 車椅子バスケの国内屈指の強豪チーム、千葉ホークス
- 千葉市職員がウィルチェアーラグビー日本代表
- 車椅子バスケ、ウィルチェアーラグビーの全国大会を開催

車椅子スポーツの聖地へ

障害者スポーツ全体へ発展

障害のある人もない人も共に交流できるまち

# 具体的取り組み

## トップスポーツ

### 多目的コートの整備

- ・車椅子バスケットボール全国選抜大会
- ・ウィルチェアーラグビー日本選手権

### アジアオセアニアチャンピオンシップ



## 理解促進 → 地域浸透

### 交流イベント



小学校での交流・体験会



産学官連携によるイベント

### 車椅子アスリートの市内での雇用促進

### 障害者スポーツ指導員養成講習会

### 障害者と健常者混合のスポーツイベント

## 多目的コートへの整備

- 床が傷むとの理由で大会・練習場所の確保が困難
- 平成26年、千葉ポートアリーナに多目的コート整備  
(2,000万円)



# アジアオセアニア大会

- リオパラリンピック出場権を争う国際大会
- トップセールス、県との連携により招致
- 遠藤 五輪担当相、鈴木大地スポーツ庁長官の観戦など、多くのマスコミが駆けつけ、決勝は会場が観客で埋まり、過去にない注目度



# 交流イベント

- 5月のジャパンパラから大会に合わせて学校での交流・体験会を開催
- アスリートと接し、障害者に対する価値観の変化へ



交流を終えた後、子どもたちの代表は「総合学習で福祉について勉強していますが、実際に体験してみると、インターネットや本では学べない貴重な経験になりました。選手の皆さんが輝いて見えました。パラリンピックの予選も応援に行きます」と感謝の言葉を述べた。

# 障害者アスリートの雇用

- 2020年、間違いなくパラリンピアンがヒーロー、ヒロインへ
- 障害者アスリートの雇用は社会貢献だけではなく、企業PRや社員の一体感醸成にも有用
- 千葉市の企業で日本代表を占有するくらいの気概が必要



## 地域での障害者スポーツの浸透

- 地域のスポーツイベントで障害者の競技を普及
- 欧米は既に一歩先を行き、障害者と健常者混合の競技へ
- 車椅子バスケットプロリーグ、健常者の車椅子チーム



パラサイクリング タンデム競技



2015世界選手権大会活躍した  
鹿沼選手・田中選手